

平成25年度要覧



埼玉県立

歴史と民俗の博物館

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

設置の目的・事業

埼玉県立歴史と民俗の博物館は、平成18年4月1日、旧県立博物館と旧県立民俗文化センターを統合して新たに誕生した博物館である。

母体となった旧県立博物館は、昭和46年11月、明治4年の埼玉県誕生から100年目を記念して設置された人文系総合博物館である。

一方、昭和55年11月には、全国に先がけて無形民俗文化財を調査研究対象とした「わざの博物館」県立民俗文化センターが設置され、さらに昭和57年11月には、県立近代美術館が設置された。2館の新設に伴い旧県立博物館の調査研究対象も見直され、展示室を全面的に改装し、昭和58年11月、歴史系総合博物館へと衣替えした。

それから二十有余年の時を経た平成18年4月、本県における行財政改革の一環として策定された「県立博物館施設再編整備計画」に基づき、県立博物館と県立民俗文化センターが統合され、新たに「県立歴史と民俗の博物館」として設置されたものである。

二つの館が統合したことにより、それぞれが長年にわたり培ってきた調査研究、実績を基に歴史、民俗、古美術の分野に関して広域的、総合的、多元的に扱う人文系総合博物館として新たに生まれ変わったのである。

当館設置の目的は、歴史、民俗、古美術に関する資料の収集、保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図ることにより、教育や学術、文化の発展に寄与することにある。

この目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 郷土埼玉の文化を総合的に捉え、その変遷と発展を知るための歴史及び民俗資料等について調査研究し、収集・保管し、展示する。
- 2 資料を適正に管理するとともに、文化財保存機関としての事業を行う。
- 3 資料の利用に関する必要な解説、案内、指導、助言等を行う。
- 4 資料に関する講演会、講習会、実演会、研究会等を主催し、開催を援助する。
- 5 資料に関する案内書、解説書、図録、調査報告書等を刊行し、頒布する。
- 6 他の博物館、学校その他の関係機関等と協力し、その活動を援助する。
- 7 その他当館の目的を達成するために必要な事業を行う。

目次

設置の目的・事業	1
沿革	2
平成25年度事業計画	3
平成24年度事業報告	12
平成24年度入館者数	25
展示概要	26
組織及び職員構成	29
施設設備	31
資料	34
利用案内	38

沿革

昭和

34年12月	埼玉県立博物館の設置についての請願を県議会において採択	9年2月	太平記絵巻の購入・公開等が埼玉県教育委員会教育長表彰を受ける
43年8月	埼玉県立博物館建設基本構想を決定	4月	常設展の入館料を改定し、一般210円・学生100円とする
11月	設計を株式会社前川國男建築設計事務所へ委託	10年6月	インターネットにホームページを開設
44年9月	博物館建設工事費13億円を計上	11月	建設省設立50周年記念事業「公共建築百選」に選定される
10月	県立文化会館を廃止。新たに県立博物館準備事務所を県立浦和図書館内に設置	12年5月	拡大常設展「博物館の広場」開催
46年11月	埼玉県立博物館条例を制定し開館	13年11月	「太平記絵巻（巻第十）」を購入
47年9月	「太平記絵巻（巻第一）」を購入	14年5月	2002 FIFA ワールドカップ™記念特別展「蹴鞠-KEMARI」開催
12月	博物館法第11条の規定に基づく登録博物館となる	7月	「太平記絵巻（巻第六）」を購入
51年1月	文化財保護法第48条に基づく国宝・重要文化財の勧告・承認出品の展示館となる	11月	第4回日本建築家協会25年賞受賞
52年4月	5月5日（こどもの日）を開館日とする	16年10月	清子内親王殿下お成り
55年4月	4月29日（天皇誕生日、昭和の日）、5月3日（憲法記念日）を開館日とする	18年4月	県立博物館施設の再編整備により「埼玉県立歴史と民俗の博物館」として新たに設置（埼玉県立博物館条例及び埼玉県立民俗文化センター条例は廃止）
11月	埼玉県立民俗文化センター開所		常設展の観覧（入館）料を改定し、一般300円、学生150円とする
57年11月	県立近代美術館開館	19年3月	関東地区博物館協会に加盟する千葉、茨城、群馬、栃木の各県立館と初の共同企画展を実施。「祈りの風景」を共通テーマに「埼玉の絵馬」開催
58年11月	埼玉県立博物館新装開館、開館記念特別展「武蔵武士」開催	4月	新体験学習施設「ゆめ・体験ひろば」がオープン
12月	国宝「太刀（銘備前国長船住左兵衛尉景光）」を購入	20年3月	大規模改修及び耐震補強工事（Ⅰ期：平成19年11月26日～平成20年2月8日）完了 工事内容：耐震補強工事、展示棟外壁洗浄・改修工事、トイレ改修工事、給排水設備改修工事等
59年4月	常設展の入館料を改定し、一般200円、学生100円とする	21年10月	交流企画展「出張博物館 in 深谷」開催 「まなびピア埼玉2009」出展
60年4月	エントランスホール、館庭等を無料開放 国民の祝日をすべて開館日とする（ただし1月1日を除く）	22年2月	大規模改修工事（Ⅱ期：平成21年9月14日～平成22年2月15日）完了 工事内容：空調設備改修工事、電気設備改修工事、地下廊下張替工事
3年10月	開館20周年記念展「さいたまの名宝」開催 記念図録「さいたまの名宝」出版	23年2月	交流企画展「出張博物館in上里」開催
4年3月	記念展の開催と記念図録の出版が埼玉県教育委員会教育長表彰を受ける	3月	大規模改修工事（Ⅲ期：平成22年11月15日～平成23年3月16日）完了 工事内容：展示室・管理棟照明設備改修工事、管理棟外壁洗浄・改修工事、非常用発電機設備改修工事、火災報知設備改修工事、階段昇降機設置工事
5年4月	国宝「短刀（銘備州長船住景光）」を購入	24年9月	天皇皇后両陛下 行幸啓
6年3月	障害者対応型エレベータ設置		
4月	条例改正により高齢者（65歳以上）及び障害者等の入館料が無料となる 旧食堂スペースに幼児コーナー及び休憩コーナーを開設		
7年4月	条例改正により義務教育終了前の者の入館料が無料となる		
10月	「太平記絵巻（巻第七）」を購入		
8年4月	「太平記絵巻（巻第二）」を購入		
12月	公開承認施設として承認される（平成23年12月まで）		

平成25年度 事業計画

◆事業運営の基本方針

1 事業運営の方針

当館は、昭和58年に歴史系総合博物館として再出発して以来、「開かれた博物館」・「親しまれる博物館」づくりに努めてきたが、平成18年度に民俗文化センターと統合し、新しく「歴史と民俗の博物館」として再出発を果たした。

そして平成17年2月に策定された「県立博物館施設再編整備計画」に基づき、これまで常設展示室の改装、収蔵庫の改装、資料の一元的管理等の事業を着実に進めてきた。平成19年度には、「ゆめ・体験ひろば」がオープンし、「歴史と民俗の博物館」としての体制が整った。

平成25年度は、博物館事業の基本となる調査研究に基づいた資料の収集、保管及び展示等での活用の充実に努めながら、学習支援事業や広報活動を推進し、学校や社会教育機関との連携を深め、県民利用の一層の促進を図るとともに、県内の歴史と民俗に関する資料情報センターの役割を果たすべく努力する。

また、県民の生涯学習の定着や協働参画意識の高まり、少子高齢化社会に対応して、児童生徒から高齢者まで幅広い層の県民に対して、より親しみやすい展示と、参加しやすい学習機会を提供できるよう工夫するなど、誰にでも優しい博物館づくりを進める。

2 事業運営の重点

上記の方針に基づき、今年度は次の事項を事業運営の重点とする。

- (1) 調査研究に基づく、資料の収集・保管と展示の充実
- (2) 常設展及び特別展に関わる調査と資料収集、展示の充実
- (3) 特別展・企画展の年各2回開催
- (4) 県民の学習支援の推進と講座・講習会等の充実
- (5) 体験活動支援ボランティア及び解説ボランティアの育成
- (6) 広聴・広報活動の一層の充実
- (7) 地元自治会等、地域社会との連携を図るとともに、学校教育での利用促進を図る

◆主要事業計画

1 調査研究事業

- (1) 「埼玉の地方文化とその特性―地域文化圏に関する調査研究―」を館職員の調査研究共通テーマとし、その成果は『紀要』に掲載
- (2) 『紀要』8号の編集、発行
- (3) 調査報告書「埼玉の夏祭り2」の刊行
- (4) 映像資料「埼玉の夏祭り2」の収録
- (5) 常設展示室の展示シナリオ及び展示資料に関する調査研究
- (6) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究
- (7) ミュージアムフォーラム2014（県立博物館学芸員合同研究発表会）の開催
- (8) 博物館ブックレット第2集『絵で語る埼玉の民話』の刊行

2 資料調査事業

- (1) 資料の収集

博物館固有の魅力的なコレクションの形成・充実に重点を置いた購入・受贈・複製製作を図り、さらに無形文化財の映像等による記録保存にも努める。

- (2) 「埼玉県立の博物館施設収蔵資料データベース」の活用 126,640件

(3) 資料の整理・保存・管理

収集した資料を整理し、保存管理に万全を期するほか、劣化の進んだ資料は修理を実施する。

さらに総合的有害生物管理 (Integrated Pest Management 略して I P M) を実施して、薬剤に頼らない予防のための資料保存・管理及び対策を図る。

(4) 館施設の防虫消毒 第1期 6/18 (火) ～ 6/19 (水)

第2期 12/9 (月) ～12/10 (火)

(5) 博物館裏方探検隊 普段見ることのできない博物館のバックヤードを学芸員が案内する。

原則毎週土曜日の午後実施 対象：一般県民 定員：なし

(6) 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設にある当館所蔵の民俗資料の管理

3 常設展示事業

(1) 展示替え

① 歴史展示

第9室人物コーナーでは「男山応輔・前田夕暮」「川村碩布・鹿児島寿蔵・大川平三郎」「戸賀崎知道軒・下総暁一」を展示する。

また、時宜にあったテーマの小展示を実施する。

「新島八重の生きた時代 ～ペリー来航から戊辰戦争まで～」 5/28 (火) ～8/25 (日)、「安政江戸大地震と鯨絵」 8/27 (火) ～11/24 (日)、「午年の総開帳 埼玉の札所めぐり」 1/2 (木) ～5/11 (日)

② 美術展示

「花鳥の世界」「指定文化財」「装・飾・楽の世界」「円空仏」「橋本雅邦」「もののふの世界」「近代版画」というテーマで展示する。

③ 民俗展示

民俗室のテーマ「日々を生きる～衣食住～」の中で、以下のテーマで年5回のコラム展示を実施する。

「家作り」 1/29 (火) ～4/21 (日) 「籠と箆」 4/23 (火) ～6/16 (日) 「魚を獲る」 6/25 (火) ～9/29 (日) 「稲から米へ」 10/1 (火) ～1/26 (日) 「履く」 1/28 (火) ～4/20 (日)

④ 季節展示

季節展示室では、四季折々に合わせたテーマや、時宜にあったテーマの小展示を実施する。

「弥生土器の美」 2/13 (水) ～5/6 (月・祝) 「旅の楽しみ～駅弁～」 5/11 (土) ～7/15 (月・祝) 「埼玉の風景―池原昭治・童絵の世界―」 7/20 (土) ～9/1 (日) 「埼玉の武術」 9/3 (火) ～10/6 (日) 「木挽町狩野家」 10/12 (土) ～11/24 (日) 「埼玉県立近代美術館「風光彩美―埼玉・四季の輝き／近代美術館のコレクションから」 11/30 (土) ～3/16 (日) 「屋根裏部屋博物館」 3/21 (金・祝) ～5/6 (火・祝)

⑤ 定例展示替え

毎月最終月曜日に展示替えを行う。

(2) 国宝・重要文化財の公開

法華経一品経 (ときがわ町、慈光寺) 4/16 (火) ～ 6/16 (日) 第4展示室

国宝太刀・短刀の公開 11/23 (土・祝) ～2/2 (日) 第3展示室

(3) 民俗芸能講習会「おかめ・ひょっとこの舞 江戸里神楽」

期日： 6/1 (土)、6/8 (土)、6/15 (土)、6/29 (土) の全4回

対象：小学生以上

定員：40名

(4) 展示解説ボランティアの育成と運営

ボランティアによる常設展の展示解説を、開館期間中、原則毎日行う。

(5) 民俗工芸実演（現地見学会）

「製材加工」5/17（金）、「桐箱作り」10/4（金）

4 特別展・企画展示事業

(1) 特別展

名称・開催期間	展 示 内 容
特別展 「発掘された木の道具」 3/23（土）～5/6（月・祝）	<p>近年発掘が進む低湿地遺跡から出土した、衣食住、農業、建築、祭祀などに使用された木器を通して、縄文時代以降の「木の文化」を再認識し、土器や石器からは分からない各時代の人々の暮らしを明らかにする。また、当館が所蔵する近・現代の農具コレクションである重要有形民俗文化財「北武蔵の農具」との共通点を探ることで、木と人々のかかわりとその歴史を考える。</p> <p>開催日数：40日 展示資料：206点</p> <p>〔関連事業〕</p> <ul style="list-style-type: none">・講演会 演題「木を作る技術、使う技術」 講師：山田昌久氏（首都大学東京大学院教授） 日時：4/21（日） 13：30～15：00 定員：150名・歴史民俗講座「木器からわかること」 日時：4/13（土） 13：30～15：00 定員：各150名・吉見町埋蔵文化財センター・吉見百穴見学会 日時：4/26（金） 13：30～15：30・展示解説 日時：3/23（土）、3/30（土）、4/6（土）、4/20（土）、 4/27（日）、5/4（土・祝） 各日とも13:30～・火起こし体験教室 日時：3/23（土） 定員：午前午後各2回 各5名

<p>特別展</p> <p>「狩野派と橋本雅邦」</p> <p>10/12(土)～11/24 (日)</p>	<p>江戸時代後期、幕府や大名から絵画制作を依頼された木挽町狩野家は、埼玉県域の村から年貢を徴収していた。川越藩士として明治維新をむかえた橋本雅邦はその門人であった。本展では、埼玉と木挽町狩野家との関係や、江戸時代から明治時代へと変わりゆく時代と画家たちの姿を、絵画作品や関連する古文書を通して紹介する。</p> <p>開催日数：40日 展示資料：約80点</p> <p>[関連事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 ・展示解説
<p>特別展</p> <p>「渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋 の博物館－Attic Museum－」</p> <p>H26.3/21(金・祝)～5/6 (火・祝)</p>	<p>渋沢栄一の後継者として経済界で活躍し、終戦前後に日銀総裁や大蔵大臣の要職を務めた渋沢敬三には、優れたリーダーシップを発揮する民俗学者という別の顔があり、自らアチックミュージアム（屋根裏部屋の博物館）を主宰してさまざまな民俗資料を収集した。本展示では、国立民族学博物館との共催により、アチックミュージアムの収集活動を中心に敬三の学術的な面での功績を紹介する。併せて渋沢敬三の父祖の地である深谷市の血洗島や渋沢家に関する資料、アチックミュージアムで収集された埼玉県に関連する資料を展示・紹介する。</p> <p>開催日数：41日</p> <p>[関連事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 ・民俗芸能公演 ・展示解説

(2) 企画展

名称・開催期間	展示内容
<p>企画展</p> <p>「絵で語る埼玉の民話 —池原昭治・童絵の世界—」</p> <p>7/20 (土)～9/1 (日)</p>	<p>「童絵 (どうえ)」という独特な画風で知られる池原昭治氏 (狭山市在住) は、『まんが日本昔ばなし』をはじめ数多くのアニメ作品の制作にかかわる一方、全国各地を訪ね歩いて自ら採集した民話を絵で表現した作品を40年以上にわたって描き続け、その中には埼玉県内に伝わる話をテーマにしたものが多数ある。本展は、池原氏の「童絵」によって埼玉県内に伝わるさまざまな民話を紹介することにより、「心のふるさと」としての埼玉の魅力を再発見しようとするものである。</p> <p>開催日数：38日 展示資料：約150点</p> <p>〔関連事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 演題「埼玉のおもしろ絵ときで語る民話」 講師：池原昭治氏 (童画家・高松短期大学客員教授) 日時：8/25 (日) 定員：150名 ・アニメ上映会 日時：7/21 (日)、8/10 (土)、8/17 (土)、9/1 (日) 各日とも13:30～1時間程度 上映作品：『まんが日本昔ばなし』より 定員：150名 ・ミニアート「だいだらぼっち」 日時：7/25 (木)、8/29 (木) ・展示解説 日時：7/27 (土)、8/31 (土) 各日とも13:30～
<p>企画展</p> <p>「圏央道の遺跡 ～埼玉の発掘調査 西から東から～」</p> <p>H26. 1/2 (木) ～2/16 (日)</p>	<p>県内には約11,000か所の遺跡が確認されており、土木工事等により数多くの発掘調査が実施されている。本展では、入間市から幸手市まで埼玉県を東西に横断する首都圏中央連絡自動車道 (圏央道) の建設に伴って発掘された代表的な遺跡の出土品を一堂に展示する。旧石器時代から江戸時代まで、多くの遺跡調査により明らかとなった最新の考古学的な研究により、埼玉県を歴史を分かりやすく紹介するものである。</p> <p>開催日数：41日 展示資料：約200点</p> <p>〔関連事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 ・展示解説 ・遺跡報告会

(3) 平成26年度開催予定特別展・企画展の準備

5 学習支援事業

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座（6回）

一般県民を対象に歴史民俗講座を開催し、郷土埼玉の歴史や民俗に関する知識と関心を深めてもらうとともに、博物館に対する理解を得ることを目的とする。

期時：4/13（土）、7/20（土）、9/21（土）、10/19（土）、12/14（土）、1/18（土）

各日とも13:30～15:00

対象：一般

定員：各150名

② 博物館教育利用セミナー

博物館のもつ文化資源を、より多面的な授業展開に活用することを目的とした教育利用セミナーを開催する。

期日：8/8（木）、8/22（木）、8/29（木）

対象：小・中・特別支援学校教員

定員：30名

③ 出前体験授業

博物館の職員が教員との連携を図りながら学校現場に出向き、本物の土器に触れることのできる「古代からの教室へ」や「昔の道具体験」「衣装等の着装体験」などの授業を実施する。

期間：通年（内容によって実施期間が異なる）

対象：小・中学校

④ 博物館クルーの育成・活用

「ゆめ・体験ひろば」等の体験メニューや博物館の事業の運営に協力するための高度な技術を持つ人々を育成し、活用する。

⑤ キッズクルーの募集

子ども対象事業への参加を促すことで、将来にわたる博物館利用者の育成を図るため、「キッズクルー」の募集を行う。

対象：県内在住の小学生中心

対象事業：特別体験事業等における子ども対象事業

⑥ 特別体験事業

体験を通して、歴史や文化の変遷と歴史的背景に対する理解を深めることを目的とする。

ア 「十二単の着装体験」

期日：①4/13（土）②1/18（土）③5/18（土）④3/8（土）

対象：①・②女性限定・高校生以上 ③・④女性限定・小中学生と高校生以上

定員：①・②各14名 ③・④各7名

イ 「十二単・直衣の着装体験」

期日：10/19（土）、11/16（土）

対象：高校生以上

定員：各日14名

ウ 「鎧の着装体験」

期日：H26. 2/22（土）

対象：大人

定員：14名

エ 「火起こし体験教室」

期日：12/7（土）、H26. 2/15（土）、3/15（土）

対象：小学生以上

定員：各日20名

オ 「お囃子体験教室」

期日：7/28（日）、11/10（日）

対象：児童・生徒・一般（未就学児は保護者同伴）

定員：各日25名

(2) 実習・研修等の受入れ

① 博物館学芸員実習（7日間）

期間：7/2(火)～7/5(金)及び7/20(土)以降の土・日を中心に、当館が指定する3日間

定員：45名

② 博物館見学実習

期間：通年（随時受入れ）

③ 教員研修等の受入れ

ア 8/23（金）中・高校5年経験者研修

イ 8/14（水）、8/15（木）高校5年経験者研修（社会貢献活動体験研修）

④ 総合的な学習・中学生職場体験・インターンシップ・教員ボランティアの受入

期間：通年（随時受入れ）

(3) ボランティアの育成及び共同事業

① ボランティアの受入れ

② 体験学習ボランティアの育成と運営

6 ゆめ・体験ひろば事業

「ゆめ・体験ひろば」は、「自由自在座」、「ものづくり工房」、「昭和の原っぱ」の3つのエリアから構成された施設で、平成19年度から稼働を始めた体験学習ゾーンである。地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを提供することで、埼玉の歴史や文化を楽しみながら学べる場として利用促進を図る。

(1) 「ものづくり工房」通常体験メニュー

期日：通年

対象：児童・生徒・一般（未就学児は保護者同伴）

定員：なし、当日受付

- ① 絞り藍染めハンカチ
- ② 江戸組紐ストラップ
- ③ 絵馬
- ④ 歴史百景
- ⑤ 絵巻物
- ⑥ まが玉
- ⑦ 浮世絵スリスリマシン
- ⑧ 季節のミニアート

(2) 「ものづくり工房」特別体験メニュー

① 藍の絞り染め風呂敷作り

期日：5/23（木）

対象：大人

定員：20名

② 藍の絞り染めストール作り

期日：7/5（金）、7/6（土）

対象：大人

定員：各日20名

③ 型付け藍染め

期日：H26.3/9（日）

対象：大人

定員：12名

④ 江戸組紐ネックレス作り

期日：10/18（金）

対象：大人

定員：20名

⑤ 江戸組紐帯締め作り

期日：H26.2/14（金）・2/21（金）（2週連続）

対象：大人

定員：20名

- ⑥ ミニ銅鏡作り
期日：1/25（土）
対象：小・中学生
定員：20名（1日4回、各5名）

(3) 「昭和の原っぱ」イベント

- ① 「博物館子どもまつり～射的遊び」
期日：5/3（金・祝）
対象：中学生以下
- ② 「博物館春まつり～ポン菓子作りの実演」
期日：H26.3/21（金・祝）
対象：児童・生徒・一般

7 関係団体・機関との連携等

- (1) 埼玉県博物館連絡協議会の運営等（会長・事務局）
 - ① 総会・理事会・研究会・講習会・見学会・県外研修会等の開催
 - ② ホームページの管理・運営
- (2) 関東地区博物館協会の運営（監事）
- (3) 日本博物館協会の活動（参与）
- (4) 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会との連携・交流
- (5) 県政出前講座の受け入れ
- (6) 埼玉県文化財保護協会との共催による文化財講習会の開催 7/31（水）～8/2（金） 3日間
- (7) ミュージアムヴィレッジ大宮公園連絡協議会の運営等（会長・事務局）
- (8) その他関係団体・民間企業との連携

8 県立博物館施設再編整備計画の推進

- (1) 県立博物館施設総合調整推進会議の開催
- (2) 学芸員の資質向上（新採用学芸員の研修、研究履歴の整備等）

9 広聴広報

- (1) 広聴
 - ① 講座・講演会・特別展等アンケート計画の策定と実施
 - ② 入館者からの意見聴取計画の策定と実施
- (2) 広報
 - ① イベントガイド・歴民博だより・ポスターほか
 - ② 彩の国だより・県教委だよりほか
 - ③ 新聞・雑誌・テレビ・ラジオほか
 - ④ インターネットによる情報発信
 - ⑤ 当館ホームページの管理・運営

10 各種印刷物の刊行

- (1) 『紀要』第8号
- (2) 調査報告書「埼玉の夏祭り2」
- (3) 展示図録 特別展「狩野派と橋本雅邦」
- (4) その他
 - ① 平成26年度催物案内
 - ② 平成26年度見学のしおり
 - ③ 平成25年度博物館要覧
 - ④ 歴史と民俗の博物館だより（第22～24号）
 - ⑤ 講座・講演会・体験学習等のテキスト
 - ⑥ 博物館利用ガイド

11 環境整備と施設設備の保全事業

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期する。

平成24年度 事業報告

1 調査研究事業

分野ごとの基礎的・分類的・形態学的調査研究、展示・教育・運営等博物館活動の諸分野に関する研究、資料の収集・保存に関する技術的研究など、博物館活動の基礎となる調査研究のほか、次の事業を行った。

- (1) 常設展示資料にかかる資料研究
- (2) 『紀要』7号の刊行(700部)
- (3) 調査報告書「埼玉の夏祭り調査概報Ⅰ」の刊行(600部)
- (4) 無形民俗文化財「埼玉の夏祭り」の映像による記録保存
- (5) 常設展示改装に伴う展示テーマの研究
- (6) 次年度開催特別展・企画展に関する調査研究
- (7) ミュージアムフォーラム2013(県立博物館学芸員合同研究発表会)「川と人のつながり」の開催
- (8) 博物館ブックレット第1集「『新篇武蔵風土記稿』の世界」の刊行(1,500部)

2 資料の収集・保存・管理事業

常設展示や特別展示等の充実及び歴史系総合博物館にふさわしい魅力あるコレクションを形成するため、資料収集方針及び資料評価会議の指導に基づき資料を収集した。

また、資料の虫菌害対策や、保存環境の整備のため、定期的に清掃を実施した。

(1) 資料の収集

新規受け入れ資料として143件258点を収集した。

① 購入	77件	180点
・日光道中絵巻		1点
・御悦礼御行列御役人附		1点
・和宮様御悦礼御参幸中仙道御固衛御大名附		1点
・武蔵七党之系図		1点
・牡丹図		1点
・木曾海道六拾九次之内 酔ヶ井		1点
・武州川島堤千本桜図		1点
・埼玉県産業報国会ポスター 夏が来た労働力をまもれ		1点
・秩父ながとろ遊園地図絵		1点
・秩父鉄道沿線名所図絵		1点
・秩父ながとろ遊園地図絵		1点
・秩父長瀬地方地質遊覧案内		1点
・秩父線長とろ 宝登山略記 長とろ案内		1点
・秩父観光案内		1点
・道外武者 御代の若餅		1点
・御巡幸供奉一覧表		1点
・日本鉄道会社創立関係資料綴等(5件)		5点
・赤富士		1点
・第二回内国勸業博覧会		1点
・御陣屋附御船目論見書類控(前橋藩武州松山陣屋)		1点

・明治二十六年春蚕 競進社改良地一覧表	1点
・公方家・御当家軍装秘鑑 全	1点
・ポスター 秩父銘仙	1点
・日本博覧図 第拾編のうち 埼玉県 (9件)	10点
・博奕御停止御触書 村申合一人別印形帳 (秩父郡皆野村)	1点
・宗門人別帳五人組御改帳下書および五人組御改帳控 (横見郡柚沢村) (2件)	2点
・埼玉県農事関係資料等 (30件)	30点
・赤表紙 (7件)	7点
・児玉郡上阿久原村松本家文書	103点
② 受 贈	66件 78点
・前田夕暮所用農具 (6件)	6点
・国民服 甲号上衣	1点
・国民服 儀礼章	1点
・軍用毛布	1点
・軍用水筒	1点
・さいたま博覧会およびグリーンハーモニーさいたま 関係資料 (8件)	20点
・アポロ 11号月着陸関係雑誌 (2件)	2点
・永保会看板	1点
・イノシシ形土製品	1点
・紡錘車	1点
・鉢形土器	1点
・鉄錆地桃形兜	1点
・三つ巴紋緋羅紗綴	1点
・近現代音楽文化関係資料等 (40件)	40点

(2) 資料の整理・保存・管理

- ① 修理・修復 2件2点
- | | |
|----------|----|
| ・駕籠 | 1点 |
| ・刀剣 (研ぎ) | 1点 |
- ② 資料管理
- | | |
|----------------|---------------------|
| ア IPM 委員会の開催 | 4月5日(木)、2月26日(火) |
| イ 収蔵庫定期清掃の実施 | 月2回(第2・4木曜日) |
| ウ 生物生息状況調査の実施 | 月1回(月末水曜日) |
| エ 収蔵庫ほか忌避剤散布作業 | 6月19日(火)～6月20日(水) |
| | 12月17日(月)～12月18日(火) |
| オ 搬入展示資料等の燻蒸 | 8月31日(金)～9月2日(日) |
| | 1月11日(金)～12日(土) |
- ③ 嵐山史跡の博物館・文化財収蔵施設にある当館所蔵の民俗資料の管理
- ④ 博物館収蔵写真フィルム・ビデオ・16mmフィルムのデジタル化事業 (雇用促進事業)
- 7月3日(火)～12月25日(火)

- (3) 資料の貸出、特別利用（フィルム等の貸出、資料の熟覧等）
- | | | |
|--------|----------------|------------|
| ① 貸出 | 兵庫県立博物館ほか | 17件（91点） |
| ② 特別利用 | (株)テレビマンユニオンほか | 174件（778点） |
- (4) 「埼玉県立の博物館施設収蔵資料データベース」の公開 126,640件

3 常設展示事業

「埼玉における人々の暮らしと文化」をメインテーマに、総合的な視野で時代の推移が理解できるような展示に努めた。調査や研究に基づく展示替えや特別公開などにより、展示内容の充実を図った。

- (1) 定例展示替え 計14回

- (2) トピック・特集展示等

- ① 歴史展示（第9室）

「粕谷義三・武者小路実篤」 4月1日（日）～8月28日（火）
「前田夕暮・男山応輔」 8月28日（火）～4月21日（日）

- ② 美術展示（第4室）

「錦絵と江戸の暮らし」 4月1日（日）～6月17日（日）
「銀座復興絵巻」 6月26日（火）～9月2日（日）
「鯉絵」 9月4日（火）～10月28日（日）
「仏教美術」 10月30日（火）～12月28日（金）
「木曾街道六十九次」 1月2日（水）～3月3日（日）
「花鳥の世界」 3月5日（火）～

- ③ 民俗展示（第10室）

「水と暮らし」 4月1日（日）～4月22日（日）
「染と織」 4月24日（火）～7月22日（日）
「飾る」 7月24日（火）～10月28日（日）
「郷土食」 10月30日（火）～1月27日（日）
「家作り」 1月29日（火）～3月31日（日）

- ④ 季節展示

季節展示室では、四季折々に時宜にあったテーマの小展示を実施すると共に、新収集品展、関東博物館協会の共同企画展「埼玉の川と船」を開催した。

「新収集品展2010～2011」 5月12日（土）～6月17日（日）
「おもちゃ」 6月26日（火）～9月2日（日）
「職人の信仰」 9月4日（火）～10月28日（日）
「刀装具」 10月30日（火）～12月28日（金）

関東博物館協会共同企画展「埼玉の川と船」

1月2日（水）～2月11日（月・祝）
「弥生土器の美」 2月13日（水）～3月31日（日）

- (3) 国宝・重要文化財の勧告・承認出品等による展示

- ① 所有者による展示

太刀・短刀 9月20日（木）～11月25日（日）

- ② 勧告

国宝

法華経一品経（ときがわ町・慈光寺） 9月20日（木）～12月28日（金）

- ③ 承認

重要文化財 宋版一切経（川越市・喜多院） 10月30日（火）～3月31日（日）

重要文化財 雲版（飯能市・長光寺） 4月1日（日）～6月17日（日）、1月2日（水）～2月11日（月）

重要文化財 高野明神像・丹生明神像（越生町・法恩寺） 11月27日（火）～12月28日（金）

重要文化財 大般若経（日高市・高麗神社）4月1日（日）～4月22日（日）、
10月30日（火）～1月27日（日）、1月2日（水）～2月11日（月）
重要文化財 釈迦三尊及阿難迦葉像（越生町・法恩寺）11月27日（火）
～12月28日（金）

重要文化財 銅造阿弥陀如来立像（神川町・光明寺）3月26日（火）～3月31日（日）

(4) 民俗芸能講習会「秩父屋台囃子」

期 日 7月14日（土）、21日（土）、28日（土）

8月4日（土）、11日（土）の全5回

受講者 35名（5日間延べ169名）

4 特別展示・企画展示事業

当館の主催又は関係団体との共催により、特定のテーマに基づいて資料を収集・構成し、特色ある特別展・企画展を開催した。

(1) 特別展「大名と藩」

期 日 平成24年3月20日（火・祝）～5月6日（日）

趣 旨 江戸時代の武蔵国の大名と藩について、名品・重要資料を一堂に会し、歴史的役割や意義を明らかにした。

展示資料総数 239点

開館日数 43日

会期中観覧者 9,702名

[関連事業]

・記念講演会「関東の譜代藩と城」

期 日 4月22日（日）

講 師 根岸 茂夫（國學院大學教授）

参加者 155名

・歴史ウォーキング「城と城下町を歩く」

期 日 4月14日（土）【忍】、4月28日（土）【岩槻】

参加者 2回計43名

・古武道演武会

期 日 5月4日（金）

演武流派 甲源一刀流剣術、楊心流柔術、神道夢想流杖術ほか

参加者 291名

・体験学習「鎧を体感してみよう」

期 日 5月5日（土）

参加者 21名

・展示解説

期 日 4月1日（日）、7日（土）、15日（日）、21日（土）、29日（日）

5月6日（日）全6回（平成24年度分）

参加者 6回計317名

(2) 企画展「にはん美術夏期学校」

期 日 平成24年7月14日（土）～9月2日（日）

趣 旨 美術品を身近に感じ、親しみをもらうため「学校の教科」を鑑賞の手掛かりとした

展示を開催した。

展示資料総数 122点

開館日数 45日

会期中観覧者 4,853名

[関連事業]

・ジュニア講座「課外授業！にほん美術鑑賞いろは」

期 日 8月12日(日)、8月23日(木)

参加者 2回計25名

・展示解説

期 日 7月14日(土)、21日(土)、28日(土)

8月4日(土)、11日(土)、18日(土)、25日(土)

9月1日(土)全8回

参加者 8回計108名

(3) 特別展「職人のわざとカター商品の誕生ー」

期 日 平成24年10月6日(土)～11月18日(日)

趣 旨 規格化された商品の原型となる「型」を使った職人の「ものづくり」をテーマとして、伝統的な技術を紹介する展示を開催した。

展示資料総数 220点

開館日数 39日

会期中観覧者 5,117名

[関連事業]

・記念講演会「ものづくりは楽しいー現代町工場のものづくりー」

期 日 10月28日(日) 13:30～15:00

講 師 たなか じゅん氏(漫画家)

参加者 74名

・民俗工芸実演「江戸木目込人形作り」

期 日 11月10日(土) 11:00～12:00、13:30～15:00

講 師 岩槻人形協同組合

参加者 158名

・民俗工芸実演「桶作り」

期 日 11月11日(日) 11:00～12:00、13:30～15:00

講 師 伊藤風呂店

参加者 204名

・ビデオ上映会「職人のものづくり①・②」

期 日 10月20日(土) 13:30～15:00

11月3日(土・祝) 13:30～15:00

参加者 2回計35名

・展示解説

期 日 10月6日(土)、14日(日)、21日(日)、

11月1日(木)、4日(日)、14日(水)、18日(日)全7回

参加者 7回計164名

(4) 企画展「埼玉歴史街道Ⅰ－『新編武蔵風土記稿』の世界－」

期 日 平成25年1月2日(水)～2月11日(月・祝)

趣 旨 当館所蔵の『新編武蔵風土記稿』と版木を中心に、そこに収載された文化財や各地の名所
図会を紹介する展示を開催した。

展示資料総数 1, 218点

開館日数 37日

会期中観覧者 4, 270名

[関連事業]

- ・記念講演会「『新編武蔵国風土記稿』がどうやってできたか」

「明治初年の好古家たちと『新編武蔵国風土記稿』の流布」

期 日 1月20日(日) 13:30～15:30

講 師 白井 哲哉氏(筑波大学准教授)

重田 正夫氏(元埼玉県立文書館副館長)

参加者 151名

- ・展示解説

期 日 1月5日(土)、12日(土)、19日(土)、26日(土)、
2月2日(土)、9日(土)、11日(月・祝)

参加者 7回計178名

(5) 特別展「発掘された木の道具」(平成24年度分)

期 日 平成25年3月23日(土)～3月31日(日)

趣 旨 条件が良くないと残らない木器から、土器や石器などでは分からない、原始・古代の人々
の生活を考えると共に、近現代の木の道具との比較を試みた。

展示資料総数 206点

開館日数 8日

会期中観覧者 1, 030名

[関連事業]

- ・火起こし体験教室

期 日 3月23日(土)

参加者 27名

- ・展示解説

期 日 3月23日(土)、30日(土)

参加者 2回計54名

5 学習支援事業

来館者とのコミュニケーションを大切にしながら、その時々によさわしい豊かで多様なプログラムを実施した。また、博物館活動を広く県民に知らせることにより利用の促進を図る活動、関係諸団体との連携を図る活動を行った。

(1) 講座・講習会等の開催

① 歴史民俗講座

- ・「狩野派と橋本雅邦－栄枯盛衰の絵画史－」

期 日 6月16日(土)

講 師 浦木 賢治 (当館学芸員)

参加者 92名

- ・「中世社会と銭貨」

期 日 8月29日 (水)

講 師 渡 政和 (当館主任学芸員)

参加者 122名

- ・「古墳から出土した勾玉について」

期 日 11月8日 (木)

講 師 中山 浩彦 (当館主任学芸員)

参加者 70名

- ・「埼玉の絵馬」

期 日 3月16日 (土)

講 師 大久根 茂 (当館学芸主幹)

参加者 87名

- ② ミュージアムトーク (学芸員による展示解説)

期 日 毎月1回

回 数 12回

参加者 292名

- ③ 博物館教育利用セミナー

期 日 8月2日 (木)

参加者 3名

- ④ 特別体験事業

- ・「十二単の着装」

期 日 4月14日 (土)

参加者 14名

期 日 11月17日 (土)

参加者 14名

期 日 1月12日 (土)

参加者 13名

期 日 3月9日 (土)

参加者 14名

- ・「十二単・直衣の着装」

期 日 5月19日 (土)

参加者 14名

期 日 10月6日 (土)

参加者 13名

- ・「鎧の着装」

期 日 1月19日 (土)

参加者 16名

- ・「火起こし体験教室」

期 日 11月24日 (土)

参加者 15名

期 日 1月26日 (土)

参加者 20名

期 日 3月23日 (土)

参加者 27名

- ・「お囃子体験教室」

期 日 8月26日 (日)

参加者 26名

期 日 11月4日 (日)

参加者 28名

- ⑤ 博物館裏方探検隊

毎週土曜日に博物館の裏方を紹介した。 延べ50回 参加者415名

- (2) 実習・研修等の受入

- ① 博物館学芸員実習

6月26日(火)～29日(金)、7月3(火)～7月5日(木)の7日間
昭和女子大学など23大学から33名

② 博物館見学実習

学習院大学など3大学49名

③ 中学生職場体験

さいたま市立桜木中学校など10校42名 延べ27日間

④ 高校生インターンシップ

県立大宮商業高校 1校5名 5日間

⑤ 大学生インターンシップ

埼玉大学など 3大学5名 6日間

⑥ 教員向け研修の受け入れ

- ・中学校初任者研修教科別研修(音楽)

期日 6月15日(金) 参加者 11名

- ・中学・高等学校5年経験者教科別研修(社会 地理歴史・公民)

期日 8月24日(金) 参加者 31名

- ・高等学校初任者研修(音楽)

期日 9月26日(水) 参加者 1名

⑦ 学校団体

小学校38校、中学校6校、高校11校、特別支援7校、大学3校、計65校

(3) デリバリー事業等

① 県政出前講座

蓮田市市民大学など 16件 参加者884名

② 市町村等連携

NPO越谷市郷土研究会など 2件 参加者180名

③ 学校連携

上尾市立尾山台小学校など 2件 参加者172名

(4) ボランティアの受け入れ

① ボランティア活動、養成講座

ア ボランティア活動

- ・体験ボランティア 62名登録

まが玉づくり・絞り藍染めハンカチ・組紐ストラップ・着装体験及び学校団体などの体験学習指導補助、スキルアップ研修等

延べ活動日数 297日 延べ活動人数 1,786名

- ・展示解説ボランティア 49名登録

常設展の展示解説を開館期間中毎日実施したほか、「古代から教室へのメッセージ」学習キット(土器貸出キット)を活用し、展示室入り口で土器・石器類のハンズ・オン解説も実施した。

延べ活動日数 310日 延べ活動人数 1,354名

イ ボランティア研修

博物館ボランティア応募者を対象とした、ボランティア養成のための専門的講座及び実践的な実習を実施した。

6 ゆめ・体験ひろばの運営

それぞれ特色のある機能と設備を持つ3つのエリアで、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様な体験プログラムを、子どもから高齢者、初心者からリピーターまでさまざまな参加者を対象に実施した。

(1) 「ものづくり工房」通年メニュー

① 絞り藍染めハンカチ	1, 911名
② 江戸組紐ストラップ	1, 169名
③ 絵馬	126名
④ 歴史百景	106名
⑤ 絵巻物	297名
⑥ まが玉	2, 139名
⑦ 浮世絵スリスリマシン	447名
⑧ 季節のミニアート	1, 007名
合計	7, 202名

(2) 「ものづくり工房」特別体験メニュー

① オリジナル藍の型染めエコバック作り		
期 日	5月24日(木)	参加者20名
② 藍の絞り染めストール作り		
期 日	7月11日(水)、20日(金)	参加者20名
③ 江戸組紐ロングストラップ作り		
期 日	10月18日(木)	参加者20名
④ ミニ銅鏡作り		
期 日	12月15日(土)	参加者41名
⑤ 江戸組紐帯締め作り		
期 日	2月14日(木)、21日(木)	参加者20名
⑥ 両面型付け藍染め手拭い作り		
期 日	3月10日(日)	参加者12名

(3) 「昭和の原っぱ」ノスタルジックイベント

① 「博物館子どもまつり」		
・射的あそび		
期 間	5月3日(木・祝)	参加者133名
② ベーゴマ大会(キッズクルー対象事業)		
期 日	7月16日(月)	参加者31名
③ 「博物館春祭り」		
期 日	3月20日(水・祝)	
・ボン菓子作り		参加者221名
・ベーゴマ大会		参加者4名
・石ころアート		参加者20名

(4) レファレンスサービス

博物館の利用に関する相談、埼玉の歴史・考古・民俗・美術に関する学習相談、情報提供、常設展示への導入、体験学習の指導・助言、各種映像機器の操作等へのアドバイスの実施。

308件

7 その他の主催事業

(1) 弥生時代復元住居見学会

期 日 4月30日(月・祝)、5月6日(日)、11月14日(水)

講 師 利根川 章彦(当館学芸主幹)、西口 正純(当館学芸主幹)

中山 浩彦(当館主任学芸員)

参加者 3回計350名

(2) 映画鑑賞会

期 日 8月10日(金)

参加者 16名

(3) 正月臨時開館関連事業

- ・「昭和のお正月」絵馬作り

期 日 1月2日(水)

参加者 64名

- ・「昭和のお正月」投扇興

期 日 1月3日(木)

参加者 67名

- ・「昭和のお正月」福笑い

期 日 1月4日(金)

参加者 17名

- ・「昭和のお正月」かるた大会

期 日 1月5日(土)

参加者 12名

- ・「昭和のお正月」貝合わせ

期 日 1月6日(日)

参加者 40名

- ・七福神めぐり

期 日 1月2日(水)～6日(日)

参加者 438名

(4) けん玉大会

期 日 8月3日(金)

参加者 11名

(5) 紙芝居と綿菓子

期 日 7月25日(水)

講 師 浅見 美寛

参加者 51名

8 関係団体・機関との連携等

(1) 埼玉県博物館連絡協議会(会長)・運営等(事務局)

総会・研究会・講演会・見学会・県外研修会・理事会等の開催

加盟館園マップ「埼玉ものしり博物館ガイド」発行(52,000部)

(2) 関東地区博物館協会(監事)

総会・理事会・研究会等への参加

(3) 日本博物館協会(評議員・関東支部長)

評議員会・全国博物館大会等への参加

(4) 「博物館友の会」との連携・共催事業の実施

① 講演会

- ・「関東における農耕社会の成立」

期 日 4月30日(月・祝)

講師 石川 日出志 氏 (明治大学教授)

参加者 167名

・「土器・陶磁器から見た日本の中世」

期 日 5月26日 (土)

講師 浅野 晴樹 氏 (さきたま史跡の博物館長)

参加者 101名

・「平家と武蔵」

期 日 7月15日 (日)

講師 本郷 和人 氏 (東京大学史料編纂所教授)

参加者 191名

・「渡来人・壬生古志福正」

期 日 9月30日 (日)

講師 森田 梯 氏 (群馬大学名誉教授)

・「C14による弥生時代の年代測定とその影響」

期 日 12月2日 (日)

講師 藤尾 慎一郎 氏 (国立歴史民俗博物館教授)

参加者 118名

・「古代日本の人口」

期 日 1月26日 (土)

講師 鬼頭 宏 氏 (上智大学大学院教授)

参加者 131名

② 見学会

・「国立歴史民俗博物館と佐倉市の史跡をめぐる」

期 日 6月9日 (土)

見学地 国立歴史民俗博物館ほか

参加者 58名

・「脚折雨乞行事」

期 日 8月5日 (日)

見学地 鶴ヶ島市脚折

参加者 9名

・「出土品展と東松山市の古代」

期 日 8月24日 (金)

見学地 さきたま史跡の博物館ほか

案内人 駒宮 史朗 (元埼玉県立博物館学芸部長)

参加者 43名

・「奥武蔵・秋めぐり」

期 日 10月28日 (日)

見学地 飯能市郷土館ほか

参加者 41名

(5) ミュージアムカレッジの開催 (埼玉大学との連携事業)

・第1回 「職人のわざとカタ」

期 日 10月19日 (金)

講師 服部 武 (当館主任学芸員)

受講者数 57名

- ・第2回 「江戸時代の職人さんとお公家さんの意外な関係」

期 日 11月2日 (金)

講師 井上 智勝 (埼玉大学准教授)

受講者数 65名

- ・第3回 「中世の職人」

期 日 11月9日 (金)

講師 根ヶ山 泰史 (当館学芸員)

受講者数 60名

- ・第4回 「東アジアの初期金属器と製作技術」

期 日 11月16日 (金)

講師 中村 大介 (埼玉大学准教授)

受講者数 57名

- (6) 「博物館で埼玉彩発見」推進事業の実施

他の県立博物館施設など6団体で「博物館で埼玉彩発見」推進事業実行委員会を組織し、文化庁のミュージアム活性化支援事業の補助金を得て、博物館の活性化に資する事業を実施した。歴史と民俗の博物館は事務局を務めた。

- ・「博物館で埼玉彩発見」キャンペーンポスター・チラシの作成・配布
- ・「埼玉彩発見」セミナーの開催
- ・「授業に役立つ博物館活用ガイドブック (DVD版付録付) の作成・配布

- (7) ミュージアムヴィレッジ大宮公園整備推進事業の実施

近隣9施設でミュージアムヴィレッジ大宮公園連絡協議会を組織して、23年度に実施した「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」整備推進事業の成果を引継ぎ、情報交換を行うと共に、ガイドブックや掲示版、ホームページを通じた広報活動を推進し、地域の魅力アップに努めた。

- (8) 特別公開のぞきからくり「八百屋お七」 (「のぞきからくり」保存伝承普及事業実行委員会との共催)

期 日 11月14日 (水)、17日 (土)、18日 (日)

公 演 「のぞきからくり」保存伝承普及事業実行委員会

参加者 3日計694名

- (9) その他事業の共催

- ・共催団体

埼玉県文化財保護協会

9 県立博物館の連携

- ・総合調整推進会議の開催、博物館評価、学芸員研修体系、IT広報ワーキンググループ会議の運営
- ・ミュージアムフォーラム2013 (県立博物館合同学芸員研究発表会) 「川と人のつながり」開催 (参加者 146名)

10 広聴広報

- (1) 広聴

- ・特別展・企画展等のアンケートの実施

(2) 広報

- ・当館刊行物、県刊行物による広報のほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等による広報を積極的に行うとともに、インターネットによる情報発信を行った。
- ・「大盆栽まつり」（5月3日（木・祝）～5日（土））、「大宮区民ふれあいフェア」（10月27日（土））、「北区民まつり」（11月4日（日））に出展し、広報を行った。

11 各種印刷物の刊行

(1) 平成25年度イベントガイド	50,000部
(2) 平成24年度博物館要覧	600部
(3) 歴史と民俗の博物館だより（第19号～21号）	各2,500部
(4) 学校と博物館の連携・利用案内	7,000枚
(5) 展示図録	
特別展	
・「大名と藩—天下泰平の立役者たち—」	2,000部
・「職人のわざとカタ—商品の誕生—」	1,200部
・「発掘された木の道具」	1,500部

平成 24 年 度 入 館 者 数

月	有 料 観 覧 者 (展 示 室)										無 料 観 覧 者 (展 示 室)										入 館 者 数 (A+B)	総 合 計	参 考		開 館 日 数												
	個人		団体一般		団体学生		年間観覧券		友の会		小計		小学校		中学校		高等学校		観覧者				招待券			観覧券		視察(個人)		小計		団体数		人数		観覧者 参加者	ゆめ・咲良 ひまわり 入館者
	一般	学生	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人			件	人		件	人	件	人	件	人	件	人	件	人		
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円			円	円		円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
4	1,940	62	4	61	0	0	12	0	65	0	2,140	1,123,600	1	154	0	0	2	66	2	60	416	2,475	191	264	0	48	50	3,724	9	5,864	13,149	19,013	623	2,390	26		
5	1,390	107	3	17	0	0	14	2	36	0	1,566	704,250	4	503	1	119	2	26	2	70	315	966	100	230	0	2	24	2,355	12	3,921	8,259	12,180	718	2,439	27		
6	401	50	5	47	0	0	10	0	12	0	520	137,400	1	25	0	0	1	15	2	120	121	503	41	0	0	4	31	860	9	1,380	4,860	6,240	146	958	20		
7	642	56	6	65	0	0	11	1	74	0	849	258,700	2	85	1	169	2	67	2	102	427	528	112	32	3	1	43	1,569	13	2,418	7,362	9,780	278	2,312	27		
8	1,155	98	2	11	1	7	11	0	17	0	1,299	451,700	1	48	0	0	0	0	6	470	1,193	539	104	88	0	4	59	2,505	10	3,804	9,142	12,946	262	3,364	27		
9	660	79	1	6	0	0	10	1	129	0	885	233,350	2	202	1	28	0	0	1	30	254	560	73	14	0	0	37	1,198	5	2,083	6,561	8,644	200	1,622	27		
10	730	35	6	41	1	1	6	0	142	0	955	402,250	8	628	0	0	4	103	0	500	1,139	124	142	0	1	90	2,727	19	3,682	6,736	10,418	294	2,372	27			
11	673	54	6	49	1	1	6	0	24	1	808	301,850	6	350	0	0	2	22	2	83	308	1,044	94	223	0	3	158	2,285	17	3,093	7,857	10,950	1,668	2,065	26		
12	330	35	1	48	0	0	7	0	18	0	438	115,350	2	131	0	0	2	51	0	110	456	55	0	0	4	32	839	5	1,277	4,945	6,222	143	1,104	24			
1	910	77	1	10	0	0	4	0	124	1	1,126	371,850	6	411	0	0	1	21	0	259	1,106	89	160	0	16	28	2,090	8	3,216	6,859	10,075	1,115	1,818	27			
2	785	54	3	73	0	0	8	0	25	0	945	300,300	4	187	0	0	2	55	1	22	168	725	80	125	0	1	21	1,384	10	2,329	5,707	8,036	154	1,504	25		
3	835	60	5	50	0	0	18	1	30	0	994	359,850	1	125	1	20	0	0	2	95	314	953	89	41	0	1	11	1,649	9	2,643	9,739	12,382	540	2,290	27		
合計	10,451	767	43	478	3	9	117	5	696	2	12,525	4,760,450	38	2,849	4	336	18	426	20	1,052	4,365	10,994	1,152	1,319	3	85	584	23,185	126	35,710	91,176	126,886	6,141	24,238	310		

展示概要

■屋外展示

館庭は縄文時代と弥生時代の遺跡で、県指定史跡となっている。発掘調査の成果をもとに弥生時代の竪穴住居を復元しており、その背後にある方形周溝墓は弥生時代後期の有力者の墓である。

■常設展示—埼玉における人々のくらしと文化—

常設展示のメインテーマは「埼玉における人々のくらしと文化」である。歴史を常に庶民の立場から見ていくという思想で貫き、庶民の力強さをダイナミックに表現することを基本姿勢としている。また、「見せる博物館」から「見る博物館」へ、「教える博物館」から「自ら学ぶ博物館」へをキャッチフレーズに、資料や研究データを通して観覧者と博物館が共に考えていこうという展示構成となっている。

プロローグ 大地に読む歴史

エントランスロビーの天井に届くようにそびえるのは、さいたま市大宮区の寿能泥炭層遺跡で確認された土層の模式断面である。各時代の遺物が出土状況に合わせてはめこまれ、各層の年代と各展示室で展開される展示内容とが対比できる歴史年表となっている。各展示室の入口には、この土層の断面をデザイン化した色別のパネルがあり、観覧の時間軸として利用できるようになっている。

第1展示室 旧石器～弥生時代

常設展示のはじまりは、埼玉の地にいつから人類が住み始めたかを考えるコーナーである。武蔵野台地や大宮台地を中心とした遺跡や出土遺物から旧石器文化を紹介する。内陸深く入りこんだ“奥東京湾”の周辺から出土した土器・漆器・木製品などから縄文人のくらしを表現している。大陸から伝えられた稲作や新たな技術はやがて東国にも達する。コメづくりのムラが営まれ、ムラとムラをたばねる首長が成長していく弥生時代を、東日本の出土遺物の比較や方形周溝墓などから表現している。

第2展示室 古墳時代

古墳時代における畿内文化の伝播や大和政権を中心とする国づくりの様子、豪族・農民の生活を紹介する。埼玉（さきたま）古墳群の稲荷山古墳から出土した辛亥（しんがい）銘鉄剣（国宝）に刻まれた文字は、国づくりの過程で北武蔵地方の豪族が大王を補佐する役割を果たしたことを物語っている。当時の武器・武具・馬具や埴輪などを通して、大和政権による国づくりに果たした東国の“杖刀人（じょうとうじん）”＝武人の役割に焦点をあてた。また、鉄製の農具や工具など新技術を摂取して開発を進めていった人々の生活を取り上げている。

第3展示室 奈良～南北朝時代

「武蔵武士」を基本テーマとする。ここではまず、発掘資料を用いて、律令制下における支配や人々の暮らしに関する展示を行う。平安時代に地方支配が動揺すると、各地で武装した領主層が台頭し始める。こうしたなか、県域では武蔵武士が登場する。その台頭過程や活躍ぶり、信仰や日常生活の様子などについて、工芸品・絵巻物・古文書・発掘資料などを使って紹介する。

第4展示室 美術展示室

埼玉県歴史の流れ（通史）の中では紹介しきれない優れた美術工芸品を、「博物館の中の小さな美術館」である本室で集中的に紹介する。様々な作品を通して美の世界の広がり提示する。

第5展示室 室町～戦国時代

室町・戦国時代の北武蔵では、室町幕府と鎌倉府、戦国大名などの間で戦乱が繰り返された。ここでは、こうした「乱世」を生き抜いた人々の姿をクローズアップする。歴史を彩る武将を輩出した古河公方足利氏・太田氏・後北条氏という3家について、工芸品・古文書などを用いて紹介するとともに、この時代の戦争を特徴づけた「足軽」と呼ばれる雑兵についても展示を行う。あわせて、中

世における人々のくらしと文化を取り上げる特集コーナーを設け、展示内容の充実を図っている。

第6展示室（展示ホール） 板碑

鎌倉から戦国時代末期にかけて盛んにつくられた板碑には、長い戦乱の中で暮らした人々の多くの願いが込められている。荒川上流で産出する緑泥片岩を用いた武蔵の板碑は質量ともに全国一を誇り、武蔵武士の名が刻まれているものも少なくない。ここでは、それらの中から我が国最大・最小のもの、最古のものをはじめ、県内の代表的な板碑を紹介している。また、ときがわ町の慈光寺の開山塔は、室町時代初期の建築様式を伝える我が国現存最古の木造宝塔といわれており、その復原資料を展示している。

第7展示室 江戸時代Ⅰ

江戸幕府のお膝元となった埼玉における支配の特色を、大名・旗本などの領主とその農民支配の在り方、交通・宗教・文化などの制度を通して紹介する。領主については、川越・忍（行田）・岩槻・岡部に配置された大名と旗本に関する資料や城の模型を中心に展示している。農民の支配については、年貢制度や、日常生活の規制などを高札や古文書により表現している。また、中山道や日光道中、利根川に設けられた関所の様子、幕府の寺院統制やキリシタン禁制、学芸、科学、民間信仰などを取り上げている。

第8展示室 江戸時代Ⅱ

江戸時代の埼玉は、河川改修や用水路等の整備などにより、耕作地が増えて米の収穫量は増大した。そして、河川交通の発達とともに、各地で地場産業が盛んとなり、商品作物も作られるようになった。こうした様子は見沼代用水構造図や高瀬船模型・藍玉・紅餅・茶甕・運賃定書などを通して紹介している。また、幕藩体制が大きくゆらぎはじめる幕末の様子は、武州一揆や安政の大地震と水害・黒船来航などの資料によって紹介している。

第9展示室 明治時代～現代

明治時代の埼玉は、政府の殖産興業・富国強兵のもとで、地場産業の近代化と産業基盤の整備を推進した。大正時代になると、大衆運動も盛り上がりを見せたが、昭和恐慌を契機にやがて長い戦争へと突入していった。戦後の埼玉は、産業・経済の復興をなすとげ、内陸型の工業県として目覚ましく発展した。ここでは、近代埼玉の歩みを行政・産業・経済を中心に紹介するとともに、昭和30年代の暮らしや地場産業・郷土の発展に貢献した埼玉の人物をより詳細に取り上げている。

第10展示室 民俗展示室

民俗展示室は平成23年12月に全面的な展示替えを行い、「日々を生きる～衣・食・住～」というテーマで埼玉の民俗を紹介している。展示は「着る」「食べる」「住む」の3部構成になっており、当館が所蔵している衣類や雨具、調理器具や食器、屋根の素材や調度品などの資料を中心に、写真や図解も多用して高度経済成長期以前の庶民の暮らしがわかるようにした。また、ミニテーマを設けて展示替えを行うコラム展示や、往時の農家の雰囲気再現した「農家のいろり」コーナーもある。

■特別展示室

企画テーマに沿った特別展などを開催する展示室である。年数回の特別展・企画展示を開催し、毎回好評を博している。企画の内容は、より広い視点から埼玉の歴史と文化を比較・理解できるように、県内だけではなく、関東あるいは全国を対象を広げてテーマを設定している。

■季節展示室

この展示室は、常設展示室と特別展示室とを結ぶ場所に位置している。京壁と垣根、そして野外の竹林・石灯籠とが調和して安らぎの場となっている。また、小さな特集展示や特別展のサブ展示室としても活用される。

■ゆめ・体験ひろば

「ゆめ・体験ひろば」は、少子高齢化に対応した交流型体験学習施設で、それぞれに特色ある機能と設備を持つ3つのエリアで構成されており、地域の文化資源を活用した博物館ならではの多様なプログラムを提供している。

第1エリア 自由自在座

入館者が多様なハンズオン展示装置を自由に選択し、自在に楽しむ体験展示として、浮世絵版画の工程を体験する「浮世絵スリスリマシン」、歌舞伎などで用いられる擬音楽器を使って楽しむ「日本の音で遊ぼう」、江戸時代の提灯や行灯をのぞき窓から覗く「灯りの今昔」、ヒモを引いて目や口を動かし複雑な仕掛けを理解する「人形芝居」、石臼で米などを挽いて粉にする体験ができる「石臼を使ってみよう」などが設置されている。

また、「昔のくらしと道具」のブースは、昭和30年代の農村の住居・町の住居の食卓や道具などの展示を見ながら、昔の生活道具を学べるコーナーとなっている。

さらに、「学び文庫」として調べ学習のための参考図書をゆったり閲覧することができる。

第2エリア ものづくり工房

「ものづくり工房」では、郷土に伝わる伝統文化のわざとところを、体験を通して学ぶことができ、藍染めや江戸組紐といった伝統工芸や地場産業をテーマとしたものづくりメニューを、常時数種目体験することができる。通常体験メニューとは別に、藍染めストールや江戸組紐帯締めなど、成人対象の本格的な特別体験メニューも提供できるようになっている。

第3エリア 昭和の原っぱ

屋外広場に、木製電柱や土管、ホーロー看板やスバル360などのディスプレイにより、昭和30～40年代のロケーションを再現したエリアが「昭和の原っぱ」である。

ここでは、ベーゴマやメンコ、フラフープといった昔懐かしい遊び体験コーナーや駄菓子屋を常設するとともに、季節に応じて、「射的遊び」や「ポン菓子作り実演」などのノスタルジックイベントも開催する。

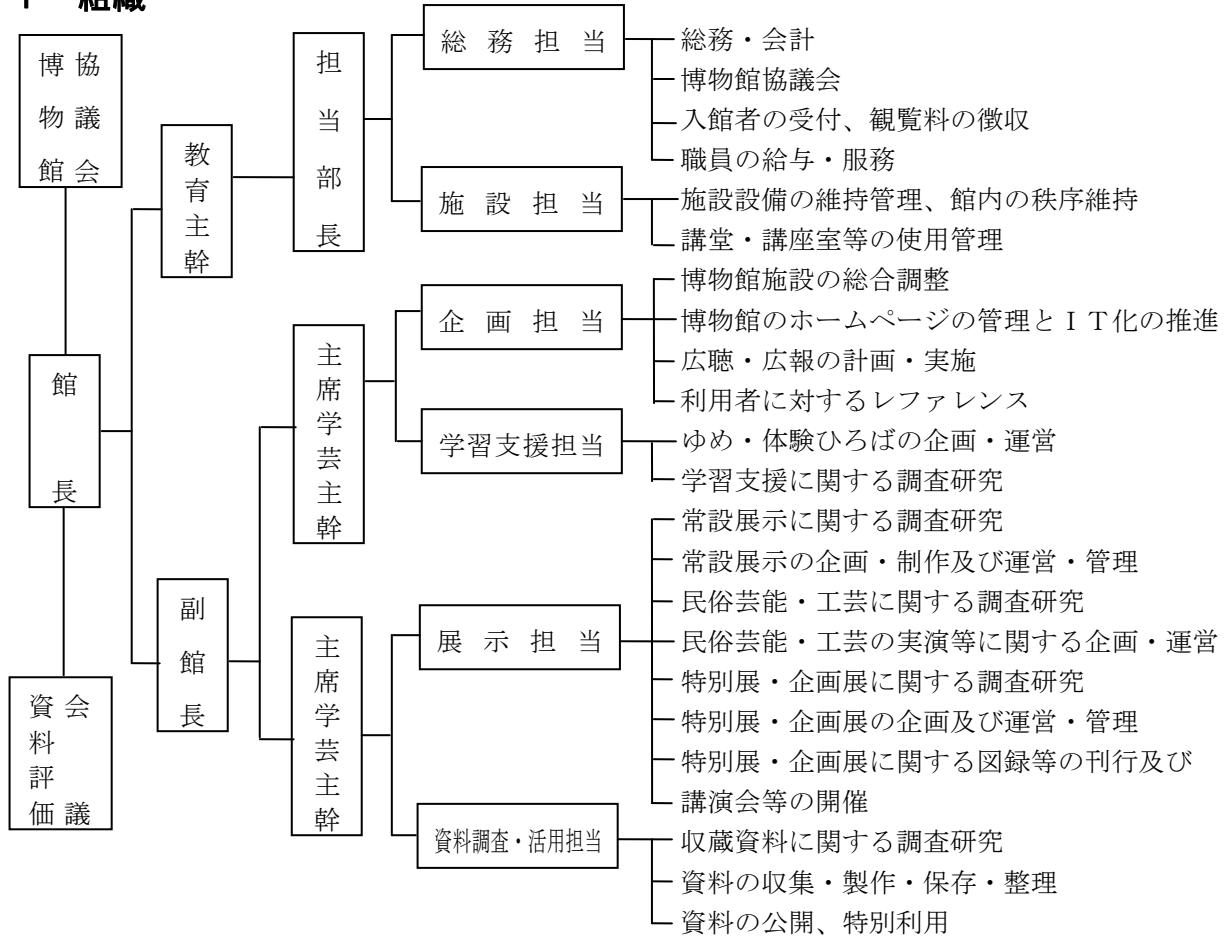
人それぞれに懐かしくもあり、新鮮でもある「昭和の原っぱ」は、かつてガキ大将で鳴らした団塊の世代の大人たちと、IT世代の現代っ子たちが、遊び文化の継承を通じて世代間交流ができる空間を提供している。

このように、特色ある3つのエリアから成る「ゆめ・体験ひろば」では、入館者はもとより、専門分野を担う博物館クルーや体験ボランティアなどが運営のサポートにあたることにより、「だれもが主役になれる博物館」づくりを進めている。

また、各施設は、ユニバーサルデザインに基づき、「誰にでもやさしい博物館」として、安全に楽しく見学や体験ができるようになっている。

組織及び職員構成

1 組織



2 職員名簿（平成25年4月1日現在）

職名	氏名	職名	氏名
館長	銭場正人		
◎総務、施設担当		[学習支援担当]	
教育主幹	藤野龍宏	学芸主幹	西口正純
○総務、施設担当		主任学芸員	服部悠武
担当部長	佐藤敏光	主任	平井悠一
[総務担当]		主任	前島俊介
担当課長	山本純二	学芸員	両角まり
主任	渡辺良一	専門員(兼)学芸員	山田実
主任	高村真史	○展示、資料調査・活用担当	
主事	井原伸	主席学芸主幹	杉山正司
[施設担当]		[展示担当]	
担当課長	増茂直人	学芸主幹	田中裕子
主事	高橋諒太	学芸主幹	加藤光男
主事	吉野修平	学芸主幹	大明敦彦
◎企画、学習支援、展示、資料調査・活用担当		主任学芸員	中山浩彦
副館長	杉崎茂樹	主任学芸員	池田伸子
○企画、学習支援担当		学芸員	佐藤美弥
主席学芸主幹	川上由美子	学芸員	浦木賢治
[企画担当]		学芸員	平山美由紀
主任学芸員	内田幸彦	学芸員	高橋恵美
主事	小林剛	専門員(兼)学芸員	諸岡美勝
主事	財津花奈子	[資料調査・活用担当]	
		主任学芸員	野中仁
		学芸員	佐藤香里
		専門員(兼)学芸員	岩本克昌
		専門員(兼)学芸員	小野義信

3 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会委員名簿

任期 平成24年4月28日から平成26年4月27日まで
(選出区分別 敬称略 職名等は平成25年7月1日現在)

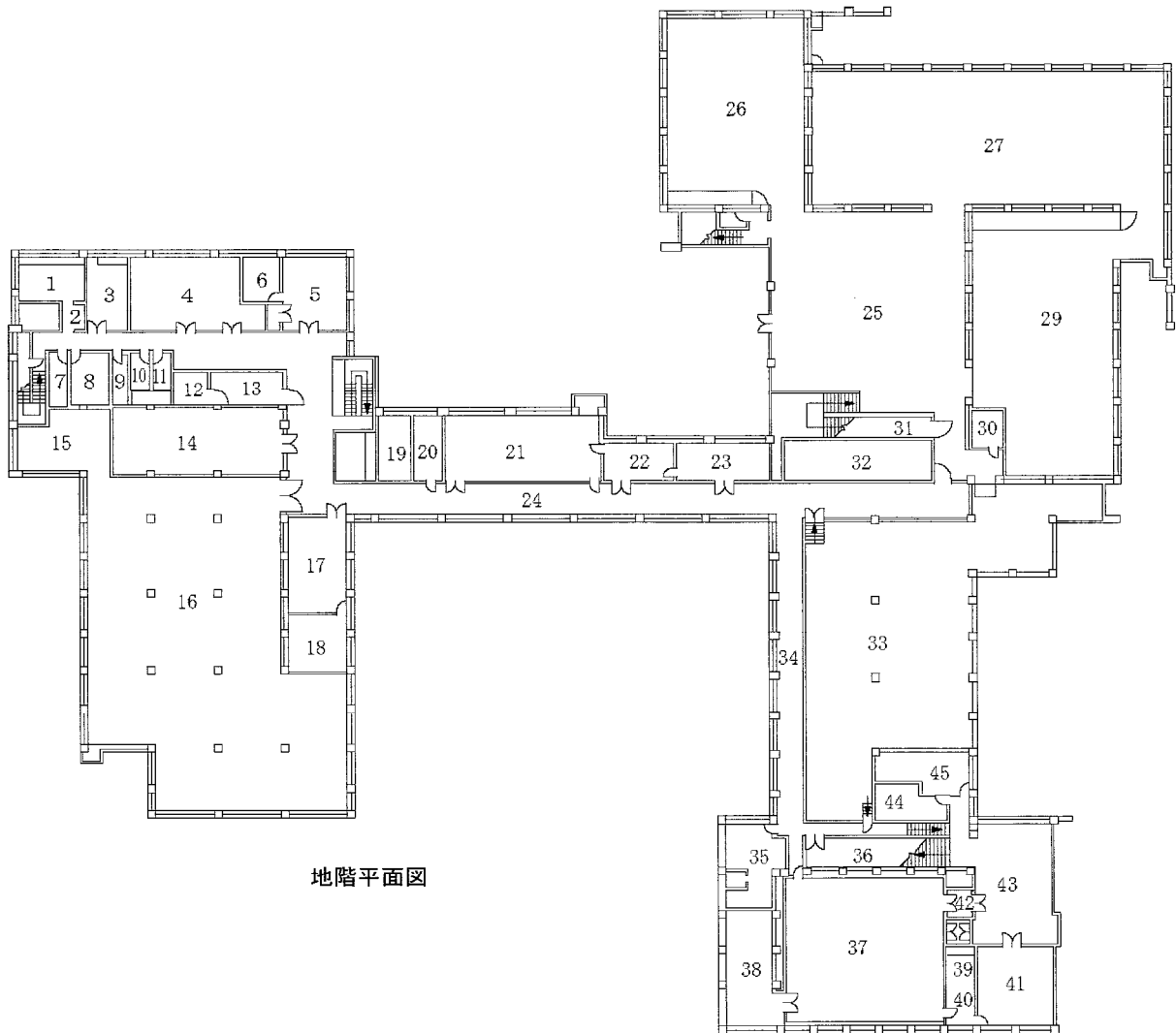
選出区分	ふりがな氏名	職名等
学校教育関係者	いしい かずお 石井 和男	県立宮代高等学校主幹教諭
	なかむら まさよ 中村 政代	県立特別支援学校大宮ろう学園校長
	ほりこし ようこ 堀越 洋子	上尾市立大石小学校長
社会教育関係者	いしざき たけし 石崎 武志	(独) 国立文化財機構 東京文化財研究所 副所長
	うへだ ふみこ 植田 富美子	埼玉県地域婦人会連合会副会長
家庭教育関係者	いわさき かずみ 岩崎 一女	埼玉県家庭教育振興協議会副会長
	しながわ ひろこ 品川 寛子	埼玉県子ども会育成連絡協議会理事
学識経験者	いちのせ としや 一ノ瀬 俊也	埼玉大学准教授
	おおの りゅうじ 大野 隆司	さいたま市大宮区高鼻町1丁目自治会長
	おとやま まこと 乙山 真	(株) テレビ埼玉 関連会社事業室付専任部長
	かいせ たかかず 貝瀬 孝和	団体職員
	かねこ ちさと 金子 知里	会社員
	かまくら さほ 鎌倉 佐保	首都大学東京准教授
	こいずみ れいこ 小泉 玲子	昭和女子大学教授 埼玉県文化財保護審議会委員
	はまだ ひろあき 浜田 弘明	桜美林大学教授
	はやし こういち 林 宏一	埼玉県文化財保護審議会委員

※ 選出区分ごとに五十音順

施設設備

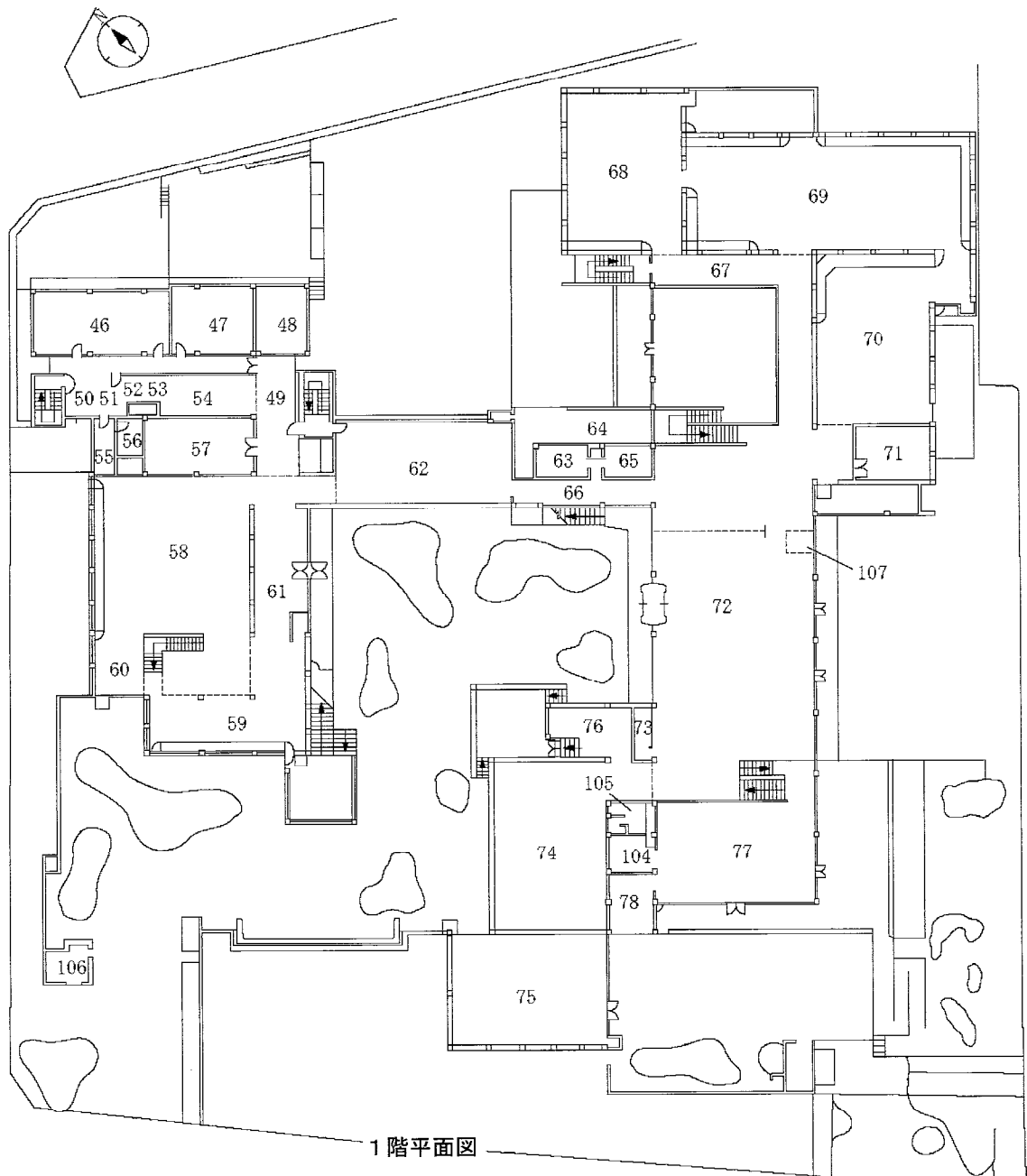
■敷地面積 12,753.71㎡ 延床面積 11,363.93㎡

各室配置図及び各室面積表

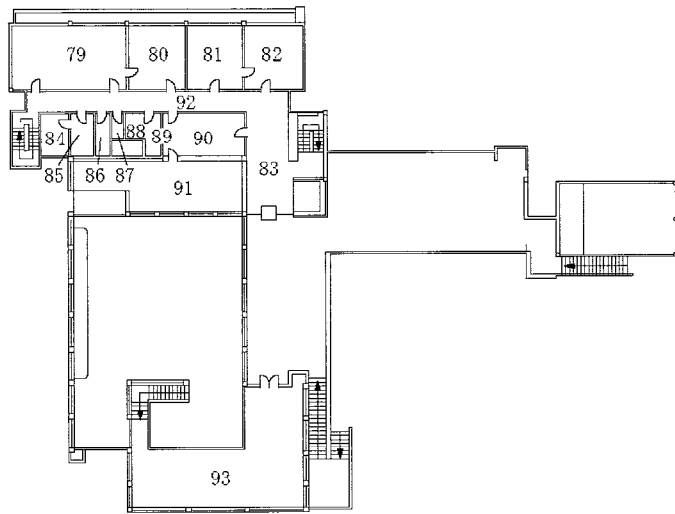


地階平面図

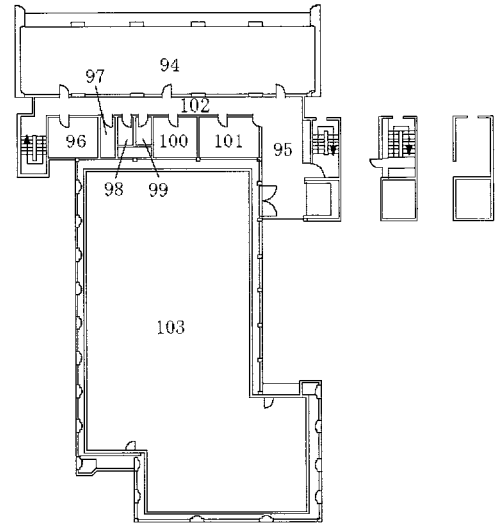
番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
1	休養室	35.84	16	収蔵庫 2	604.80	32	倉庫 1	47.52
2	湯沸室	7.50	17	図書室 2	52.80	33	空調機械室 1	431.44
3	ボランティアルーム	30.24	18	炭酸ガスポンベ室	33.60	34	廊下	94.32
4	資料保存室	79.20	19	消火水槽	21.60	35	旧食堂事務室	43.92
5	スタジオ	40.32	20	消火ポンプ室	14.40	36	旧食堂倉庫	58.32
6	暗室	17.28	21	変電室	86.40	37	講堂	227.52
7	浴室	9.00	22	中央監視室	23.76	38	講堂準備室	51.84
8	控室	11.70	23	発電機室	32.40	39	音響調整室	10.56
9	男子便所	9.00	24	廊下	373.72	40	湯沸室	18.48
10	女子便所	6.12	25	常設展示室 6	367.74	41	講座室	60.48
11	掃除用具室	6.12	26	常設展示室 7	237.60	42	講堂前室	13.20
12	殺虫消毒室 1	10.26	27	常設展示室 8、9	450.72	43	講堂前ロビー	94.56
13	殺虫消毒室 2	28.50	29	常設展示室 10	320.64	44	男子便所	20.12
14	空調機械室 2	94.80	30	常設展示準備室 2	6.00	45	女子便所	28.60
15	収蔵庫 3	46.50	31	常設展示準備室 3	16.50			



番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
46	管理事務室	108.00	59	特別展示室1	237.60	71	常設展示準備室1	54.06
47	車庫	64.60	60	休憩室	43.20	72	エントランスロビー	712.80
48	荷扱室	43.20	61	特別展示室エトラスビ-	116.64	73	コインロッカー室	14.40
49	荷解広間	63.36	62	季節展示室	195.84	74	自由自在座	207.36
50	管理棟エトラスビ-	26.88	63	客用男子便所	14.40	75	ものづくり工房	237.60
51	男子便所	9.00	64	みんなのトイレ	7.02	76	ゆめ・体験ひろば準備室	54.48
52	女子便所	6.12	65	客用女子便所	17.18	77	休憩コーナー	207.60
53	湯沸室	3.42	66	廊下	52.48	78	幼児コーナー	37.08
54	荷解梱包室	53.55	67	ギャラリー	144.96	104	自動販売機コーナー	18.47
55	警備員室	16.80	68	常設展示室4、5	237.60	105	倉庫2	8.82
56	救護室	13.20	69	常設展示室2、3	427.68	106	正門警備員室	17.55
57	特別展示準備室	72.00	70	常設展示室1	273.18	107	インフォメーション	-
58	特別展示室2	324.00						



2階平面図



3階平面図

番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	延床面積	11,363.93 ㎡
79	会議室	86.40	92	廊下	66.24	内訳	
80	資料熟覧室	43.20	93	特別展示室3	151.20	・展示部門	4,984.38 ㎡
81	応接室	43.20	94	学芸事務室	226.80	展示室	(3,711.96 ㎡)
82	館長室	43.20	95	ロビー	51.84	その他	(1,272.42 ㎡)
83	ロビー	51.84	96	副館長室	26.88	・収蔵部門	1,416.90 ㎡
84	電話交換機室	16.53	97	男子便所	9.00	・管理部門	4,962.65 ㎡
85	男子更衣室	10.56	98	女子便所	6.12	その他	
86	男子便所	9.00	99	湯沸室	3.42	建築面積	4,529.57 ㎡
87	女子便所	6.12	100	調査研究室2	21.12	内訳	
88	湯沸室	3.42	101	調査研究室1	26.88	・本館	4,512.02㎡
89	女子更衣室	10.32	102	廊下	66.24	・正門警備員室	17.55㎡
90	図書室	38.40	103	収蔵庫1	712.80		
91	書庫	94.20					

■環境整備と施設設備の保全（平成24年度実施）

大宮公園の風致と調和した環境の保全及び施設設備の維持管理を図り、広く県民の利用及び資料の保全に万全を期した。

- ・防災訓練（消防、地震） 平成24年7月12日（木）、平成25年1月30日（水）
- ・自家用電気工作物電気保安検査 平成24年11月12日（月）
- ・施設設備の保守業務委託、小破修繕の実施

資料

1 年度別当初予算一覧

(単位:千円)

年 度	管 理 運 営 費	施設設備 管 理 費	展 示 事 業 費	博物館資料 収 集 管 理 費	教 育 普 及 活 動 費	特 別 展 開 催 及 び 準 備 費	ゆめ・体験 ひろば 事 業 費	調 査 研 究 事 業 費	展 示 解 説 員 運 営 費	そ の 他	計
昭和 47	35,454	12,742	11,000	38,198	7,283	12,000					116,677
48	32,248	14,620	7,093	57,873	3,789	12,000					127,623
49	22,420	14,513	11,933	53,100	3,779	12,000					117,745
50	32,442	17,631	14,520	34,176	5,253	12,000					116,022
51	34,693	15,371	12,214	26,920	3,597	12,000					104,795
52	41,369	16,133	12,243	37,752	4,610	12,000					124,107
53	41,742	17,055	12,939	33,369	4,228	13,000				2,500	124,833
54	42,197	17,579	13,024	34,759	4,365	15,000				5,600	132,524
55	39,121	18,311	14,614	35,121	4,421	18,000				6,000	135,588
56	55,188	19,633	16,107	38,529	5,199	18,000				5,563	158,219
57	54,073	19,916	13,890	29,318	5,628	10,550					133,375
58	53,036	19,529	11,078	30,033	6,892	19,702	17,955	573			158,798
59	52,506	19,744	14,843	74,507	4,027	26,769	13,221	652		2,000	208,269
60	49,017	20,765	13,498	37,447	3,812	55,311	11,021	652	22,109	1,800	215,432
61	48,482	22,857	12,354	34,128	3,661	31,232	9,732	621	27,304	1,800	192,171
62	44,429	22,316	11,177	34,113	3,483	45,696	9,403	621	28,202	2,900	202,340
63	41,680	22,128	10,853	33,736	3,299	36,312	9,084	621	28,377	1,457	187,547
平成 元	39,656	23,168	11,885	37,268	3,302	82,042	8,724	625	29,203	1,538	237,411
2	42,835	23,637	13,426	35,733	2,671	52,089	7,042	596	30,270	1,493	209,792
3	40,865	24,487	15,911	34,666	2,857	72,646	6,127	604	30,425	1,493	230,081
4	40,521	25,448	13,727	35,115	3,099	48,260	7,351	600	32,971	13,949	221,041
5	40,272	25,804	13,551	34,107	3,356	44,834	7,135	600	34,442	8,050	212,151
6	38,154	24,909	11,458	31,487	3,020	37,744	6,408	540	37,283	14,944	205,947
7	37,340	24,799	8,695	26,551	2,209	30,635	5,441	518	38,047	9,513	183,748
8	37,803	24,787	6,757	22,963	2,218	43,203	7,900	293	38,493		184,417
9	39,067	24,962	6,269	19,489	2,393	33,851	7,210	235	39,028	41,706	214,210
10	37,002	23,713	5,893	16,175	1,828	26,073	6,366	171	38,321	26,995	182,537
11	34,384	23,872	5,361	14,464	1,813	21,628	6,357	152	38,321	1,982	148,334
12	31,980	24,436	5,731	9,852	1,653	17,859	4,605		37,565	1,491	135,172
13	33,180	24,341	5,598	7,404	1,844	12,025	5,392		34,491	1,196	125,471
14	35,819	24,121	5,438	6,158	2,052	12,331	2,959		34,516	1,166	124,560
15	35,496	23,430	4,560	5,539	1,414	10,955	2,074		31,881	1,164	116,513
16	35,060	23,425	4,484	5,211	1,882	11,862	1,832		26,570	1,153	111,479
17	57,764		38,804	7,083			4,108				107,759
18	57,812		38,298	8,784			3,326				108,220
19	57,682		37,026	8,445			5,195				108,348
20	54,952		35,169	8,021			5,474				103,616
21	53,606		31,504	7,683			5,215				98,008
22	51,557		31,651	7,030			4,865				95,103
23	50,672		40,354	6,576			5,149				102,751
24	54,605		33,326	8,646			4,268				100,845
25	53,092		41,305	6,233			3,911				104,621

2 入館者数の推移

(昭和46年11月6日～平成25年3月31日)

年 度	開館日数	利用人員	1日平均 利用者数	備 考	年 度	開館日数	利用人員	1日平均 利用者数	備 考
昭和 46	114 日	40,830 人	358 人		平成 元	279 日	118,696 人	425 人	含入場者数
47	294 日	112,002 人	381 人		2	283 日	117,217 人	414 人	〃
48	282 日	93,688 人	332 人		3	280 日	111,762 人	399 人	〃
49	278 日	98,034 人	353 人		4	275 日	103,686 人	377 人	〃
50	281 日	105,959 人	377 人		5	242 日	93,441 人	386 人	〃
51	281 日	99,042 人	352 人		6	278 日	95,401 人	343 人	〃
52	283 日	120,085 人	424 人		7	282 日	119,952 人	425 人	〃
53	280 日	120,029 人	429 人		8	279 日	147,425 人	528 人	〃
54	281 日	132,210 人	470 人		9	280 日	110,760 人	396 人	〃
55	281 日	127,766 人	455 人		10	279 日	108,711 人	390 人	〃
56	279 日	127,723 人	458 人		11	281 日	132,205 人	470 人	〃
57	258 日	95,810 人	371 人		12	282 日	102,760 人	364 人	〃
58	220 日	83,817 人	381 人		13	287 日	113,248 人	394 人	〃
59	280 日	115,970 人	414 人		14	288 日	107,833 人	374 人	〃
60	277 日	140,644 人	508 人	含入場者数	15	285 日	123,416 人	433 人	〃
61	281 日	166,393 人	592 人	〃	16	294 日	113,807 人	387 人	〃
62	281 日	138,289 人	492 人	〃	17	269 日	105,107 人	390 人	〃
63	280 日	131,013 人	468 人	〃	18	310 日	134,251 人	433 人	〃
					19	250 日	131,150 人	524 人	〃
					20	308 日	144,538 人	469 人	〃
					21	184 日	90,477 人	491 人	〃
					22	208 日	93,138 人	447 人	〃
					23	305 日	133,160 人	437 人	〃
					24	310 日	126,886 人	410 人	〃

3 所蔵資料数(平成25年3月31日現在) 121,970点

絵画	1,446点	工芸	1,096点	彫刻	30点	書跡	167点
歴史	46,703点	民俗	66,474点	考古	6,024点	模型	30点

4 特別展・企画展一覧

年度	春	夏	秋	冬
昭和 46			埼玉百年史	
47		縄文の美となど	アイヌ文化展	関東の鉄仏
48		寺内萬次郎展	台湾の民具	昔の旅
49		足軽胴と陣笠	東北の美術	小村雪岱展
50	原始の世界	埼玉景勝30選展	斉藤与里展	
51	永田二郎展	埼玉の張り子展	さいたまの肖像展	近代埼玉の書
52	中野四郎作品展		戦国武将展	はにわ展
53	埼玉のやきもの	近世埼玉の文人展	奥原晴湖展	
54	弁当箱にみる用と美		絵馬展	胎内納入品をもつ仏像
55	大久保喜一展		文化財保護法施行30周年記念埼玉の指定文化財展－美術工芸品	板碑展
56		編む	江戸のよそおい	木と漆の原始工芸 －寿能泥炭層遺跡出土品展－
57			古代東国の薨	
58			新装開館記念特別展 武蔵武士	荒川の漁具・漁・祖おやの譜録
59	浮世絵	埼玉・岩手文化交流展 北武蔵 杖刀人とその時代	埼玉・岩手文化交流展 縄文の風景－大地と呪術－	江戸の風俗 －絵筆が語る町人文化－
60	宿場	激動の昭和	(外) メキシコの民芸 －太陽と神々の匠たち－	かお
61	古代の祭祀	(外) 古代メキシコ・オルメカ文明展	海上之邦おきなわ	武蔵ゆかりの武器・武具
62	秩父－繭そして信仰－	収蔵品展	(外) 埼玉県・山西省友好県省締結5周年記念－山西省文物展	遊びとおもちゃ
63	日本のあけぼの	収蔵品展	さいたまの円空	古墳－かざり大刀の世界－ 世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－
平成元	世界盆栽大会協賛特別企画展 樹盆－その美と歴史－ 比企－丘陵に生きた人々の暮らしと文化－	収蔵品展	(外) クイーンズランド文化展 －姉妹州の4万年の歴史－	酒の文化史
2	さいたまの海 －縄文人からの伝言－	収蔵品展	南蛮の美術 －異国にあこがれた武将たち－	お金百態－寄託資料 埼玉銀行コレクションを中心に－
3	音のかたち－日本の音を探る－	収蔵品展	開館20周年記念展 さいたまの名宝 国宝・重要文化財	喫茶の考古学－茶の湯再発見－ かたどられた祈り－木・紙・藁のフォークロア
4	かたどられた祈り－木・紙・藁のフォークロア	江戸のからくり夢空間－近代科学事始	はなのいろはうつりにけり な・・・歌仙絵の世界	鯉絵－鯉が踊れば世も動く－ つば・かめ・すりばち－中世のやきもの暮らし
5	つば・かめ・すりばち－中世のやきもの暮らし	河童VS天狗 －人と妖怪の交流史－	甦る光彩－関東の出土金銅仏－	奉納された道中アルバム －絵馬にみる寺社参り－
6	相撲－むかしきけちゝぶ殿さへすまふとり－	子育ての原風景 －カミの子からムラの子へ－	検証！関東の弥生文化 －一粒の米が変えた暮らし－	最新出土品展 さいたま地中からのメッセージ
7	観・天・望・気 －お天気の世界－	最新出土品展	古代東国の渡米文化	美の匠たち－日本刀をめぐる“わざ”の世界－
8	美の匠たち－日本刀をめぐる“わざ”の世界－	最新出土品展	太平記絵巻の世界	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～
9	歴史を歩く～埼玉の札所めぐり～	最新出土品展	女帝明正天皇と将軍家光～松平信綱とその時代～	人形と張り子 桜花爛漫
10	桜花爛漫	最新出土品展	女性はにわ－その装いとしぐさ－	さいたまの鉄道
11	さいたまの鉄道	さいたま最新出土品展 ‘99	アイヌの四季と生活 －十勝アイヌと絵師・平沢屏山－	さいたまの名宝シリーズ2 ゆ～お風呂の文化史～
12	ゆ～お風呂の文化史～	最新出土品展	一象がゆく－将軍吉宗と宮廷 雅	発掘された日本列島2000・さいたま出土品展
13		発掘調査速報展	埼玉の名宝シリーズ3－神楽の風景－	めざせ日本の近代化 ～日本の産業育てた渋沢栄一～
14	KEMARI－蹴鞠－	発掘調査速報展	開設四百年 中山道－武州往來－	
15		埼玉の名宝シリーズ4 めざめる古代－新指定の考古資料－	平林寺	銀座復興絵巻
16	銀座復興絵巻	埼玉県発掘調査速報展2004	国宝太刀・短刀と太平記絵巻	羽子板の美とわざ 年中行事絵巻
17	年中行事絵巻	あの遺跡この遺跡－埼玉発掘50年史－	刻まれた鼓動 ～歓喜院聖天堂の彫刻建築～	

年度	春	夏	秋	冬
18	芸能絵巻～舞い踊り囃す～	天下をまわって1300年 お金めぐる社会史	由来 伝来 名刀の一千年	祈りの風景 埼玉の絵馬
19	祈りの風景 埼玉の絵馬	博物館発→ちいさな旅 ー埼玉遊覧案内ー	お伊勢さんと武蔵	日本の色彩～藍・紅・紫～
20		埼玉サッカー100年	名もなき至宝ーうけつがれし重要有形民俗文化財ー	誕生 武蔵武士
21		いただきます～食の文化史～	出張博物館in深谷	雑兵物語の世界
22	雑兵物語の世界	ヒーロー参上	仏教伝来 埼玉の古代寺院	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道
23	降嫁150年記念 皇女和宮と中山道	あそび漫遊	円空 ところを刻む ー埼玉の諸像を中心にー	大名と藩-天下泰平の立役者たち-
24	大名と藩-天下泰平の立役者たち-	にほん美術夏期学校	職人のわざとカター商品の誕生ー	埼玉歴史街道Ⅰ ー『新編武蔵風土記稿』の世界ー
25	発掘された木の道具	絵で語る埼玉の民話 ー池原昭治 童絵の世界ー	狩野派と橋本雅邦	圏央道の遺跡 ～埼玉の発掘調査 西から東から～

利用案内

◆展示室等の観覧について

1 開館時間

午前9時から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

※7月1日から8月31日までは、午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

2 休館日

(1) 月曜日（ただし祝日及び振替休日は開館）

(2) 年末年始（12月29日から1月1日まで）

(3) 館内消毒及び展示替えのため休館（6月17日から6月24日まで及び12月9日、12月10日）

3 展示解説

(1) 各展示室では、学芸員、ボランティアが御希望に応じて解説・案内します。

(2) 団体見学の場合は、10日前までにお申し込みください。

4 観覧料

(1) 常設展示： 一般 300円（200円） ※（ ）内は団体（20人以上）料金
 高校・大学生 150円（100円）

(2) 特別展・企画展開催期間中は別に定めます。

(3) 次の方は無料で観覧できます。

① 義務教育修了前（中学生以下）の方

② 障害者の方（身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている方）

③ 上記障害者の介護の方（障害者一人につき一人）

※65歳以上の方の観覧料につきましては、条例改正により、平成25年7月1日から一般の方と同額になりました。

5 観覧料の免除とその手続き

(1) 次の場合は、「観覧料等減額（免除）申請書」に、実施計画書等を添付のうえ、観覧日の10日前までに提出していただくことにより観覧料を免除します。

① 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する幼稚園、保育所園、小・中学生の引率の方

② 教育課程に基づく学習活動やクラブ活動として観覧する高校・大学生・各種学校等の生徒とその引率の方

③ 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、他の地方公共団体が開催する歴史と民俗の博物館の資料に関する事業（講演会、講習会、研究会等）を企画した主催（引率）の方

④ 埼玉県又は埼玉県教育委員会が開催する全国会議・ブロック会議・研修会等に参加し、会議又は研修会の日程の一環として観覧する方

(2) 次の場合は、視察依頼書を提出していただくことにより観覧料を免除します。

① 埼玉県、埼玉県教育委員会、国、地方公共団体又は市町村等関係機関関係者で、歴史と民俗の博物館の事業及び施設設備の視察を目的とした観覧

(3) 次の場合は、インフォメーションにお申し出いただくことにより観覧料を免除します。

- ① 教育課程に基づく学習活動のための下見をする方
- ② 歴史と民俗の博物館に資料を寄贈、寄託している方
- ③ 歴史と民俗の博物館が発行する優待券、招待券、ボランティア登録証をお持ちの方

6 問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 総務担当
 電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆講堂・講座室について

1 施設の概要

- (1) 講 堂 面積 227.52㎡ 収容人員 162人
- (2) 講座室 面積 60.48㎡ 収容人員 30人

2 利用料金

種 類	項 目 (貸 出 単 位)	金 額
施 設 使 用 料	講 堂 (1 時 間)	610円
	講 座 室 (1 時 間)	160円
附 属 設 備 使 用 料	音 響 設 備 (1 回)	110円
	ビ デ オ プ ロ ジ ェ ク タ ー (1 回)	810円

- (1) 附属設備については、利用開始からその日の利用終了までで1回とします。
- (2) 使用料が減額又は免除になる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

3 注意事項

- (1) 次の場合、施設の御利用はできませんので、御了承ください。
 - ① 博物館の管理上支障があると認められるとき。
 - ② 公共の福祉を阻害するおそれがあると認められるとき。
 - ③ その他博物館の設置の目的に反すると認められるとき。
- (2) 施設利用を許可するにあたり、必要がある場合は、条件を付したり、制限を加えたりすることがあります。
- (3) 施設を利用できるのは、開館日の開館時間内のみです。
- (4) 利用時間には、準備及び片づけの時間も含まれます。
- (5) 利用を終了したときは、施設の状態を速やかに利用前の状態に戻してください。
 施設や設備を損傷したり、備品等を紛失したり損傷したときは、それを修理し、損害を賠償していただきます。
- (6) 附属設備、長机、予備椅子を利用したい場合は、事前に申し出てください。
- (7) 研究会等で図録等を販売しようとするとき、又は特別の設備等を利用しようとするときは、事前に申し出てください。
- (8) 講堂・講座室は地下1階にあり、エレベーター、スロープ等はありません。
 階段昇降機が設置されておりますので、車椅子で御利用になる場合は、職員が操作いたします。
 遠慮なくお申し出下さい。

(9) 展示室は有料となりますので、展示室を御利用の際は観覧券をお買い求めください。

4 利用申込み

- (1) 原則として、利用日の属する月の3か月前の初日（その日が休館日である場合にはその翌日）から、利用日の7日前（その日が休館日である場合にはその前日）までに、埼玉県立歴史と民俗の博物館事務室まで「施設等利用（変更）許可申請書」を提出してください（原則として事務室まで直接お越しください。）。空き状況は電話で確認することができます。4月から5月までに使用されるための予約については、受付できない期間があります。
- (2) 予約及び申請の受付時間は、開館日の開館時間内のみです。
- (3) 申請に基づき、「施設等利用（変更）許可書」及び使用料の「納入通知書」を発行します。
- (4) 使用料については、「納入通知書」により、最寄りの金融機関等で納入期限までに納入してください。

5 申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 施設担当
電話 048-641-0890 F A X 048-640-1964

◆資料の写真原板使用及び資料写真撮影・熟覧について

当館の所蔵資料で写真原板があるものについては有料で御利用いただけます。
また、保存上などで問題がない資料についても有料での写真撮影・熟覧をお取り扱いいたします。

申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964

◆資料の寄贈受入について

資料の寄贈希望がある場合は、資料調査・活用担当に御一報ください。事前調査をしたのち、書類手続きを行います。その後、資料評価会議に諮り、審議したのち正式に受け入れます。

※ 当館の資料受入基準から外れるもの、すでに同様の資料が収蔵されている場合などは、事前調査をすることなくお断りする場合がありますので御了承ください。

申込み・問い合わせ先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 資料調査・活用担当
電話 048-645-8171 F A X 048-640-1964



埼玉県のマスコット コバトン

平成25年度 埼玉県立歴史と民俗の博物館要覧（第8号）
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL 048-645-8171（学芸）
TEL 048-641-0890（総務・施設）
FAX 048-640-1964
ホームページURL <http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

発行：平成25年7月